

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	知多信用金庫本店営業部	階数	地上3F
建設地	愛知県半田市星崎町	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,700
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年8月 予定	評価の実施日	2016年8月3日
敷地面積	1,243 m ²	作成者	松本 拓也
建築面積	992 m ²	確認日	2016年8月3日
延床面積	2,515 m ²	確認者	石橋 洋二郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6

音環境	3.8
温熱環境	3.1
光・視環境	3.5
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

機能性	4.1
耐用性	3.7
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.3

生物環境	1.0
まちなみ	5.0
地域性	3.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.9

建物外皮の	3.1
自然エネ	3.0
設備システ	3.1
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源	3.0
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.7

地球温暖化	3.0
地域環境	2.5
周辺環境	2.8

3 重点項目

①地球温暖化への配慮 3.0

③敷地内の緑化 1.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) **1.5%**

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

②資源の有効活用 3.4

④地域材の活用 5.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

地域産磁器質タイル(外壁)

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

地域産磁器質タイル(内壁)

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3-1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性
LR-2-2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3-1 生物環境の保全と創出
④地域材の活用
Q-3-2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引
知多信用金庫本店営業部

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1.2 遮音										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
3.2 グレア対策										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
4.2 換気										
4.3 運用管理										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1.2 心理性・快適性										
1.3 維持管理										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
2.2 部品・部材の耐用年数										
2.4 信頼性										
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		将来建設予定の本部棟・事務センター棟と3棟一体で景観を形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		地産材の磁器質タイルを外壁に採用	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.96	3.1	0.30	-	-	3.1
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				3.1	0.30	-	-	3.1
集合住宅以外の評価(3a.3b)			BEI=0.98	3.1	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.21	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自		再生クラッシュラン、リサイクルガラス造粒砂	4.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		仕上げ材に自然材料を使用(木材、石材等)	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68	-	-	
1 消火剤			不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	
3 冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2概算値:99%	3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		外構舗装の一部に透水性ブロック舗装を採用	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		駐車場を通り抜け式とし、見通しを確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	独自			3.0	0.33	-	-	
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				2.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:1.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				5.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	地域産磁器質タイル(外壁)
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	地域産磁器質タイル(内壁)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 知多信用金庫本店営業部

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・今後建設予定の本部棟・事務センター棟を含めた3棟の建物が一体となり、知多半田駅西側に景観に配慮したエリアを形成する。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室やホールといった緒室を囲む壁は、天井裏スラブまで達する遮音壁とし、特に遮音性能を求められるホールでは建具も遮音仕様としている。 ・大開口の窓にはブラインドを設け、日射の影響を抑制することができるようにしている。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・ロビーやホワイエといった多くの方が利用するエリアは天井を高く取り、開放的な空間としている。 ・大通りから内部空間が見通せることも考慮し、インテリアのデザインは信用金庫の本店に相応しい格調のあるものとしている。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・大通り沿いに緑化帯を設けた。 ・外装に地産材の磁器質タイルを用いる計画とした。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・Low-E複層ガラスの採用、庇を設ける等、日射熱負荷をできる限り低減する計画とした。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・再生クラッシュラン、リサイクル造粒砂といったリサイクル材を用いる計画とした。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・外構舗装の一部に透水性ブロック舗装を採用した。 ・大通り沿いに緑化帯を設け、中木を植樹することで、歩道に日陰を形成する計画とした。
その他	